



がんばっています!
-No.51-

子どもと一緒に 楽しく農業

飯田 尊之さん
利恵子さん
りえり太くん

(木島地区・吉)

【松本市から】

新規就農をするために家族で3年前に松本市から飯山市に移住してきました。

20代の頃はサラリーマンとしてバリバリ働いてい

ましたが、30代を目前に家族との時間がなかなか取れない今の働き方にこのままでいいのかと思うようになっていきました。そんな時キャベツ農家さんとの出会いがあり、手伝いをしてみないかと誘いを受けました。

【農業研修センターで学ぶ】

飯山市では新規就農までのサポートがしっかりしていて、それが移住を決めた理由でもあります。

飯山市農業研修センターでは、農業のノウハウをしっかりと学ぶことができました。

農林課の皆さんや先輩農家さん、たくさんの方のサポートがあり昨年独立することができました。

【子どもと一緒に】

昨年はきゅうりと紅芯大根、トウモロコシ、ナスを作りJAや道の駅、その他

取引先に出荷しました。今年はまだ新たに違う野菜も栽培しようと考えています。農業は毎年毎年、新たな挑戦がありそこが楽しくやりがいもあります。もうすぐ4歳になる息子も楽しそうに「僕のミニトマト」と言って一生懸命収穫の手伝いしてくれました。

【今後の抱負】

そして、これからはSDGsの取り組みも必要になっていく時代です。

どのようにして食品ロスを減らすのか、有機農業に取り組んでいくのかが自分たちの今の課題でもあります。

ただ野菜を作るのではなく、環境に配慮し、食べてもらう人、とくに未来を繋いでいく子どもたちにとって少しでも良い状態の物を提供する、そんな農業人になりたいと思います。



畑いっぱいのナスを収穫

あぜ道だより



常盤地区農業委員 石田 慶子

【大切な宝物】

手元に一冊の大学のノートがあります。勤めを辞めた平成24年から畑ごとに作物の配置や実施日をはじめ肥料や種苗の購入先、散布量等を簡単に書き連ねたものです。11年分の春作から秋作、作付け品種、使用材料などに加え、ちよっとしたコツや失敗時の反省、感想も書き留めました。

紙面の半分を占める作付け図に並ぶ数字は畝の間隔を記したのですが、圃場では几帳面だった祖父が残した手作りの尺棒※が頼りです。(今どき寸尺基準は自分だけとも思いつつ)

ジャガイモ、キュウリ、トマト、白うり、ネギ、白菜、大根、カボチャ、野沢菜など作物の成長や収穫の喜び、何より「おいしかった」

のひと言が張り合いになります。

色褪せた表紙をめくると、「4月某日堆肥1台、苦土石灰6袋散布と耕し、某日キタアカリ4kg、ダンシヤク2kg植え、6月某日白うり種まき(降雨少なく延期)、8月某日早カブ、サニーレタス種まき・・・」などの記述とともに余白には近所からの頂きものの記載も。畑作業には、帽子や手袋、鎌などの農具と同様に必携します。上手く収穫できたこと、失敗したこと、実家(専業農家)の亡くなった父母の働く姿。見返すたび、農業の楽しさと難しさを実感し、行間からその時々いろいろな思いがよみがえってきます。

ずいぶんと変色が進み、残りページも僅かになったA4版のノート。私にとって貴重な手引きであり、大切な宝物でもあります。

※尺棒

畝の間隔など農作業に必要な寸法を目盛りを示した棒のこと

雪国できゅうりを栽培!? 情報委員 廣瀬公一

「この雪の中でも、きゅうりを出荷しているところがあるらしいよ」「えーっ、どこで?」というわけで、2月1日に秋津地区の農業法人「有限会社シュウウ」のきゅうり栽培施設を見学しました。最初に栗岩所長より会社の説明があり、菌茸、野菜果樹栽培、施設園芸栽培をされており、収穫した野菜をレストランで使用したり、にんにくを加工した黒にんにくを販売したり、6次産業化までされているということでした。また、関連会社では堆肥生産をして、野菜などの品質向上や増収に役立っているという理想的な農業経営をされている内容でした。

さて、きゅうりですが、20アールの8連棟のハウスの中はととても広く、畑と比べるととてもスッキリと低いところに実がなっているのです。これは、ハンモックベンチ吸い戻し式という養液栽培技術で、全国でも少ない事例だそうです。水にもこだわっていて、斑尾高原一帯に深くしみこみ天然のミネラル

を豊富に含む地下水です。ヤシガラベッドに苗を植えて養液をチューブでかん水し、余った養液はまた戻して、連作障害回避と管理作業の単純化により労力軽減、省力化が図れるそうです。また、きゅうりは4本支立てのつる下げ栽培で、上から下げた縄に子づるをからませて、収穫の終わったつるを下へまとめていくというもので、目からウロコでした。加温はボイラーによるもので、燃料の高騰は頭が痛いそうです。当日は天気良く室温は30℃ほどで、自動換気で22℃~23℃に保たれていました。雪が積もると温度が上がらず大変だということです。

このハウスきゅうりは8ヶ月もの長期どりが可能で、冬期間でも収穫でき、年間を通して雇用もできるなど良いところもありますが、燃料代、雪への対策など課題もあると思います。雪国での施設栽培の実現に驚いたとともに、今後の発展、地域への普及に期待したいと思います。



広いハウス内は冬でもあたたかい



収穫の終わったつるを下へまとめて



まっすぐな「きゅうり」

あしあと1・2月の活動記録

- 1月 7日 農業委員会役員会
- 26日 1月農業委員会総会・情報委員会
- 2月 1日 北信州農業委員会協議会研修会(中野市)
- 10日 農業委員会役員会
- 13日 県農委女性協議会研修会(安曇野市)
- 24日 2月農業委員会総会・農業振興農政対策委員会